

Title	電子商取引の取引形態と決済手段へのニーズに関する研究
Sub Title	
Author	福田馨(Fukuda, Kaoru) 國領二郎
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1997
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1997年度経営学 第1373号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001997-1373">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001997-1373</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名

福田 馨  
(株式会社あさひ銀行)

主査 國領 二郎  
副査 太田 康信  
池尾 恭一

所属

國領 二郎 研究室

## 電子商取引の取引形態と決済手段へのニーズに関する研究

日本において、1994年より始まったインターネット上での商取引—電子商取引—は、導入期を過ぎ、いまや女性や家庭にまで浸透し始め、単なるブームを超えて、新たな市場を作り出している。

しかし、このように下地が出来つつある電子商取引であるが、代金決済面においては、以前と同様、物財を中心に銀行振込等オフラインでの決済手段が主に使われており、買い手にとって手間のかかるものとなっている。最近になって、徐々にではあるが、デジタル財を中心にオンラインでの決済手段が使われ始め、決済手段も変化しつつあるが、まだまだ不明な点が多く取引上のネックとなっている。

本研究では、これら未発達で、不明な点が多い電子商取引の決済の仕組みについてマーケティング的な視点から分析を行った。すなわちどのような財がいかなる販売形態で売られ、そしてどのような決済手段を選好しているかについて仮説を構築し、検証を行った。また、今後の決済手段についても同様に、検証を行った。

電子商取引における決済手段は、デジタル財においては、1回当たりの決済金額、物財においては、財の種類及び販売方法の特性、すなわち買い手側の取引におけるニーズによって決まるのである。そして、今後の決済手段としては、取扱量が増加し、コミッションが抑えられれば、宣伝効果や信用面等メリットの多い、決済プラットフォームが重要な存在となるのである。